

平成30年度 学力向上指導改善プラン

三田市立ゆりのき台中学校長 竹村 年正 印

学校教育目標		自立して自分の将来の夢や目標に挑戦しつづける生徒の育成			
推進主体		研究推進委員会			
学力に関する前年度の状況・経年の課題等					
学 力 の 状 況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	○基礎基本の知識の定着は達成できており、正答率において県・全国平均を上回っている。 ●適切な言葉で話すことに課題がある。 ●文章構成や展開について自分の考えをもって読むことに課題がある。		
		算数 数学	●記述式問題において、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。 ●データを収集して整理し、資料の傾向を読み取るなど資料の活用に関する課題がある。 ●生徒質問紙において、数学に関する関心について全国平均を下回っており、受験教科としての重要性は持っているが、社会生活での教科の有用性についての認識が低い事が課題である。		
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	●概ね良好であるが、記述式問題等において、質問内容に対してポイントを押さえた説明の仕方に課題が見られる。 ●長文の資料や実験操作とその結果を読み解く問題に対して、課題が見られる。			
	授業等からうかがえる状況(各教科)	○積極的に授業に参加できる生徒が多く、真面目な授業態度である。 ●自分の考えを筋道を立てて説明することに課題が見られる。			
慣 学 ・ 力 生 活 上 習 に 慣 係 等 の 学 習 状 況	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	○基本的な生活習慣や学習習慣についてはおおむね良好である。 ●読書の時間が平日30分未満の生徒が50%を下回り、全く読書をしていない生徒がそのほとんどであり、今後具体的な取り組みが必要である。			
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	●学習時間の定着はできつつあるが、2年生の学習時間の落ち込みがあり、3年間を見据えた取り組みが必要である。 ●携帯・スマホの使用時間は、全体としては適切な時間に収まっているが、一部かなりの時間を使っている生徒がおり、保護者と連携した指導が必要である。			
研 校 修 内 の 研 究 状 況	校内研究の状況	「ねらいとめあてを明確にした授業づくり」を研究テーマとし、教師の授業力向上を目指している。			
	校内研修の状況	授業公開の定例化により、積極的な授業交流を行うことで、教科の枠を超えた指導法の工夫改善を行っている。 講師を招き、授業法の改善のための研修会を実施している。			
家 庭 連 ・ 携 校 種 間	家庭・地域等の状況	●子どもの教育に対する関心が高い家庭が大半であるが、その一方で家庭の複雑な事情から、全く放置されている状況もあり、二極化が見られる。 ●地域の学校への関心は高いが、十分に活用できていない。 ●生徒指導関連の小中連携は、進んでいるが、学力向上における学習習慣の定着や授業改善に関する連携が不十分である。 ●英語科での出前授業は行われているが、教科の日常的な交流や連携が不足している。			
	小・中における教科連携等の状況				
		4月	10～11月	2～3月	
学力向上に向けての重点的な目標		成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	中間評価 (今年度の全国学力・学習状況調査、研究の成果などを踏まえての設定目標等の見直し)	年度末評価 (今年度の成果と来年度に向けた課題等)
		○読書活動の充実による読解力の向上に努める。	○1日の読書時間30分以上が、全校生徒の50%以上になる。 ○学級文庫の全クラス設置 ○図書館での本の貸出数が、生徒一人当たり5冊以上が全校生徒の50%以上になる。	○図書ボランティアの活用等による、図書館の利用拡大を行う。 ○家庭生活状況調査の定期的な実施による、読書習慣の定着を図る。 ○生徒会図書委員会の活動を通じた、読書活動の推進を行う。	○全国学力テストによる、国語のA・B問題において、ともに全国平均を5%以上上回るなど、良好な結果を得たが、目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く問題においては、正答率が2.6%と課題が見られる。図書室での生徒一人当たりの貸出数5冊以上は、10月現在13%なので、今後図書委員会、図書ボランティアと連携しながら改善を進めていく。
		○学力分析による学習方法、指導方法の工夫改善を行う。	○学校評価アンケートで、生徒・保護者の授業内容の肯定的意見が80%以上になる。 ○学習の理解を助ける、ICT機器等を利用した授業実践を行う。 ○授業公開期間の設定による、授業交流・研修を行う。 ○「授業のめあて、授業の振り返りの明示」等の授業における『型』をつくっていく。 ○新学習システムの活用による、個に応じた学習指導の充実を図る。	○10月段階での学校評価アンケートによる授業に関する肯定的評価は94.6%なので、後半に向けてさらに努力を続けたい。 ○授業公開期間を10月現在2回目を終了、教員の授業参観率76%なので、今後参観シートの工夫をしながら100%を目指す。 ○授業改善のための研修会を夏休み、11月の2回実施(11月は研究授業を実施)。夏休みと11月に同じ講師を招き系統だった研修実施する予定。	
		○家庭における学習習慣、生活習慣の改善に取り組む。	○平日の家庭学習時間が学年×60分以上が各学年生徒の80%以上になる。 ○平日の家庭学習30分以下の生徒0%を達成する。 ○携帯・スマホの使用時間の1時間以内90%、2時間以内100%を達成する。	○定期的な家庭生活状況調査の実施による学習習慣・生活習慣の点検・指導を行う。(平日調査年間3回、長期休業中) ○学校便り、学年・学級通信、懇談等を利用して各家庭への啓発を行う。 ○「家庭学習プリント」の配布による学習習慣の定着を図る。(3年生を中心)	○定期的な家庭生活状況調査を現在まで、3回実施し(ゴールデンウィーク・6月平日・夏休み)、結果について保護者に分析をふくめて報告した。 ○家庭学習プリントを(国・数・社・理)を毎日行うことで、家庭学習習慣の定着を図っている。
		○学習相談・教育相談の充実を目指す	○教育相談週間の年2回実施する。 ○学校評価アンケートによる学習相談・教育相談に対する肯定的意見80%以上を達成する。	○長期休業日、ノー部活デーを利用した自学教室の充実を行う。 ○教育相談週間を実施し、個々の生徒理解を図ります。 ○学習ボランティア、ひょうごがんばりタイム事業を活用した学習支援を推進します。 ○テスト1週間前の部活停止と放課後の時間を利用した学習相談を実施する。	○教育相談週間を1、2学期各1回目を実施終了。 3学期に1、2年生については3回目を実施予定。 ○自学教室については、ノー部活デーの月曜日だけでなく、3年生対象にした水曜日、金曜日の自学教室を開設。
		○学力向上に向けた小中連携の推進を行う。	○学習習慣・生活習慣の改善、学力向上の取り組みのための小中連携の会を年間3回以上実施する。 ○小中の授業交流を年間2回以上実施する。	○学習規律の小中で統一した指導の取り組みを行います。 ○小中連携のため出前授業等の授業交流を実施します。 ○小中9年間を見通した、最低限身につけるべき学習内容の基準作りを行います。	○小中連携のための出前授業を英語科で実施 ○学習習慣・生活習慣の改善に向けた小中連携の取組については今後の課題